



流れの
先に

日本一の出荷量!! 徳島の春にんじん



きゅうよしのがわ
いまぎれがわ
旧吉野川河口堰管理所では、旧吉野川河口堰と今切川河口堰の2つの堰を管理しています。これらは、堰上流域への塩水の遡上（流入）を防いで、堰上流部の真水を農業、水道（鳴門市、松茂町、北島町）、工業用水（徳島県北岸）として利用できるようにし、地域の暮らし、経済・産業の発展に寄与するとともに、洪水を安全に流下させる役割も果たしています。

今回は、吉野川北岸に位置する徳島県板野町の春にんじんを紹介します。



大型トンネル群 (板野町)



青々としたにんじんが育つトンネル内部

広大なトンネル群

吉野川の河口まで約15km、吉野川北岸の徳島県板野郡板野町。ここは日本一の出荷量約4万3千トン誇る春にんじんの産地だ。板野郡内の板野町や隣の藍住町^{あいずみ}などには、大きなビニールのトンネルが連なる大規模な畑がある。春はにんじんの生産量が少なくなり、高値で取引される。この時期に的を絞ったにんじん生産が1968年頃から始まり、独自の「トンネル栽培」の開発により急速に広まった。

夏は水田や畑(キュウリ、ウリ類など)として使い、冬にはにんじんを育てるところも多い。水は旧吉野川河口堰や今切川河口堰上流の旧吉野川から取水され、水路を通して供給されている。

春ニンジンができるまで

水田には当然水が必要だが、にんじんは土が湿り過ぎると生育や品質が悪くなる。そのため、種まき時の水やりが重要となる。種まきと同時に、大型トンネルを組み立てる。間口3.3~3.4m、幅5.4~6mぐらいのビニールを使用してトンネルを組み立てる。

生育の様子をみながら、ビニールに直径約8センチの穴をあけ、温度を調節する。生育には130~145日間(種まき時期により差がある)かかる。収穫時には、トンネルを取り除き、専用の機械で収穫する。出荷は3月初旬~6月上旬ぐらいまで。最盛期は5月中である。

気を遣う、種まきから60日間

JA板野郡人^{にんじん}参連絡協議会の岡本英樹会長に話を伺った。「この20年ほどで、町内のにんじん栽培が一気に広まりました。中にはにんじん生産専門の農家もあります」と大型トンネルを眺めながら話す岡本

さん。出荷先は関東がトップで約51%、次いで中部が23%、関西が17%となっている。

「収穫までの間で一番気を遣うのは、種まきから約60日間です。この時期に無事に育つと、後は順調に生育します。トンネル内の温度管理も大切で、換気をするなどトンネル内温度が上がりすぎないように注意しています」と話す。

続けて、「頭を悩ますのは、薬剤散布です。温度調節用の穴から薬剤を散布するので、薬剤がトンネルの外に飛散せず、周りの環境に配慮できます。ただし、にんじんは薬剤の規制が厳しく、他の作物には使えても、にんじんには使えないものがあります。規制は年々厳しくなっています。トンネルの中で葉が枯れる病気やダニなどの害虫が発生すると、全体に被害が広がる恐れがあります」と栽培の苦勞を語ります。

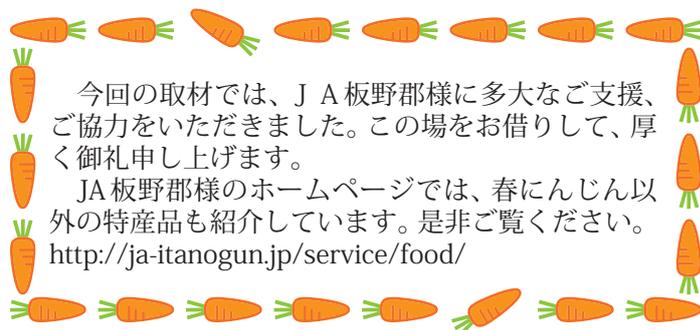
丸かじり！春にんじん

徳島産春にんじんの特徴は、甘くて柔らかいこと。ベータカロテン、ビタミンA、カリウムが豊富。料理の材料としての利用はもちろんのこと、



JA板野郡人参連絡協議会 岡本英樹会長

ジュースやスティックサラダなどの生食がお勧めだ。徳島の春にんじんを是非ご賞味あれ。



今回の取材では、JA板野郡様に多大なご支援、ご協力をいただきました。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

JA板野郡様のホームページでは、春にんじん以外の特産品も紹介しています。是非ご覧ください。
<http://ja-itanogun.jp/service/food/>